資料２

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

PRESS RELEASE

学長記者懇談会資料

JST 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) に本学の学際的チームが採択され、資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖プロジェクトを開始

JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が今年度より新たに開始した「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の育成型に、本学の学際的チームと沖縄高専、中城村、オリオンビール(株)等企業が参画する産学官連携研究プロジェクトが採択されました（育成型：採択率 18%、応募件数 67 件、採択件数 12 件）。
資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖プロジェクトを沖縄から開始します。

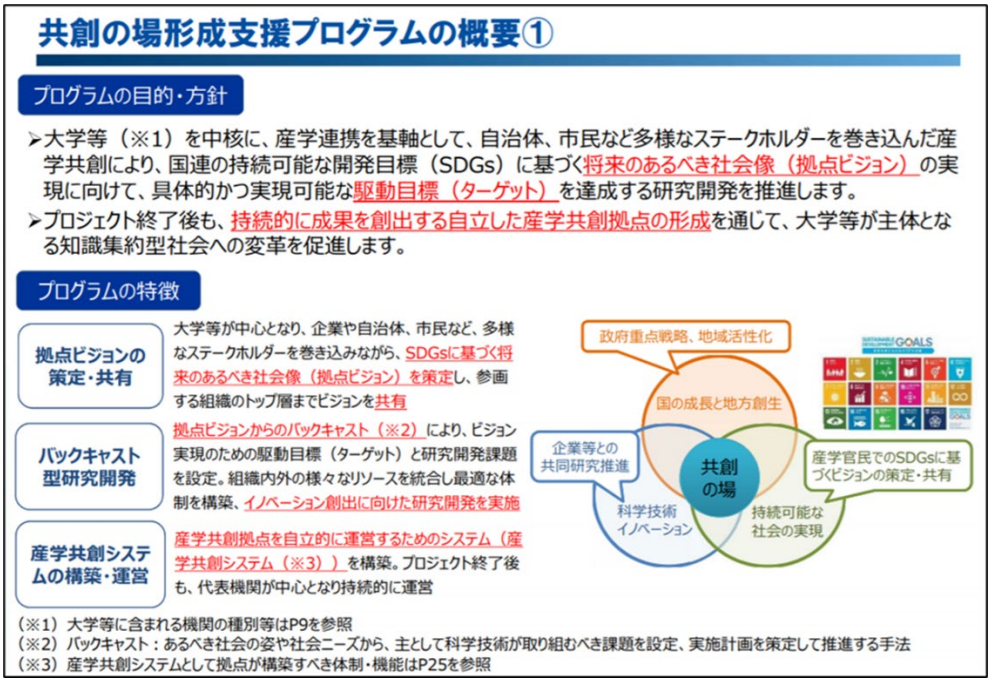
１、「共創の場形成支援プログラム」について

本プログラムでは、大学などを中核とする産学連携を基軸に自治体、市民など多様なステークホルダーを巻き込んだ産学共創により、国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に基づく未来のあるべき社会像（拠点ビジョン）を策定し、「拠点ビジョン実現のためのバックキャスト型研究開発」とそれを支える「持続的な運営が可能な産学共創システムの構築」をパッケージで推進します。これにより、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学共創拠点の形成を目指す令和 2 年度より開始された新規プログラムです。

公募には「本格型」と「育成型」の 2 つの実施タイプがあり、「育成型」で採択されたプロジェクトは、プロジェクト終了年度に「本格型」への移行評価が実施されます。

（１）本格型
実施期間：最大 10 年度支援
予算規模：最大 3.2 億円程度／年度

（２）育成型
実施期間：最大 2 年度支援
予算規模：2,500 万円程度／年度



２、研究プロジェクトについて

プロジェクト名：「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」
プロジェクトリーダー：竹村明洋（理学部　教授）
副プロジェクトリーダー：羽賀史浩（研究推進機構　上席 URA）
拠点の全体管理を担う組織の代表：木暮一啓（研究推進機構長（理事・副学長））
研究開発課題リーダー：竹村明洋（理学部　教授）、千住智信（工学部　教授）、島袋亮道（地域連携推進機構　特命准教授）
参画機関：沖縄工業高等専門学校、オリオンビール株式会社、株式会社メイキット、
株式会社マチス教育システム、エコソーラー・ジャパン株式会社、中城村

プロジェクトの概要：

【提案内容】

持続可能社会は世界的課題であるが、資源・環境制約と経済を両立することは容易ではなく、社会モデルの転換が必要である。

本プログラムでは、解決策として沖縄をベースに「食」と「エネルギー」の循環社会モデルの形成を目指す。その基本的な考え方は、個別問題の最適化ではなく、複数の問題を相互に連携し、包括的に解決する全体最適化である。主な要素技術としては、閉鎖循環型陸上養殖、再生可能エネルギー、廃棄食料の資源化等であるが、それらをデジタル技術を屈指して連携し、最適な循環社会を実現することを目標とする。本モデルは、沖縄だけでなく、亜熱帯海洋性の島嶼モデルとして、東南アジアの循環社会モデルとなることを目指す。

【プロジェクト説明図】

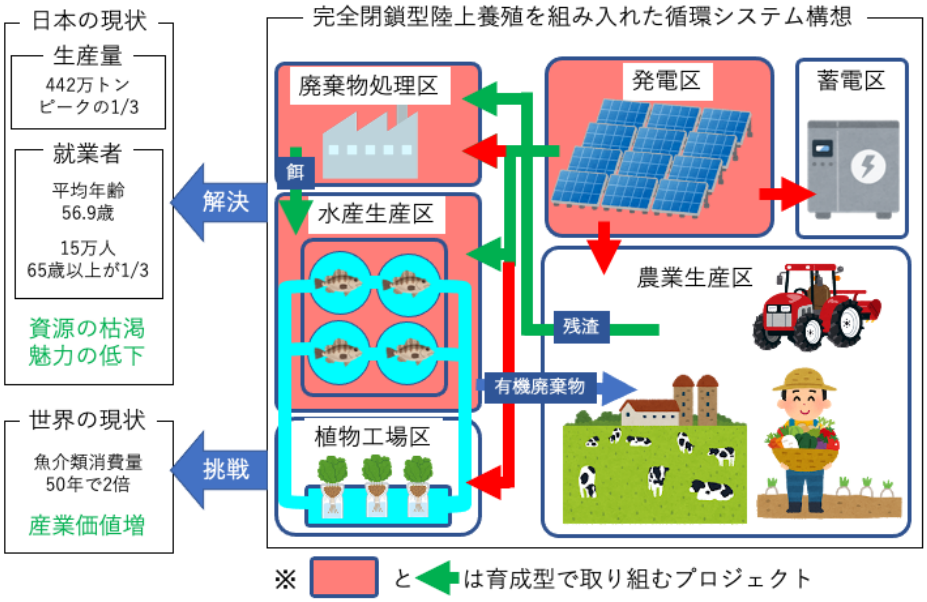


図 1.　プロジェクトの全体構想

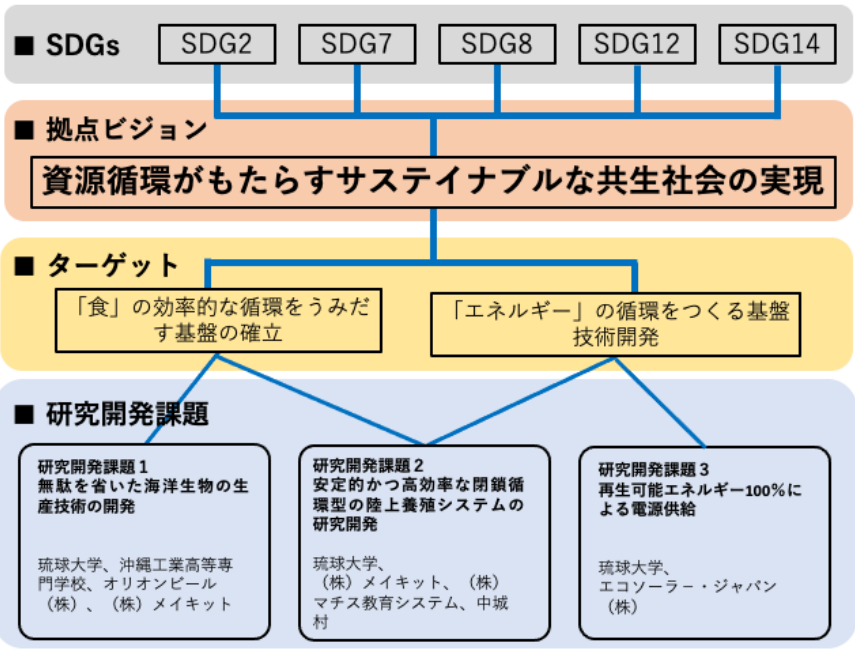


図 2.　産学共創シナリオの構成図

【参考プレスリリース】

（１）JST：共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）令和２年度新規採択プロジェクトについて
https://www.jst.go.jp/pr/info/info1475/index.html

（２）琉球大：オリオンビールと研究推進機構との SDGs に関する産学連携協定の締結について
https://www.u-ryukyu.ac.jp/news/18623/

（３）琉球大：中城村養殖技術研究センター（NAICe）の開所式を行いました
https://www.u-ryukyu.ac.jp/news/17767/